

さいがい げんいん ひさいしゃしえん
4. 災害の原因と被災者支援

ひが い かくだい 被害を拡大させた大きな要因は、ほんしゅうなんがんと せっしん ふた たいふう おおあめ さんりん
被害を拡大させた大きな要因は、本 州 南岸に接近した二つの台風による大雨と山林の

こうはい かんが 荒廃であると考 えられています。 やまなしけんとうぶ ちゅうしん おお あめ ふ おおはらむら げんおおつきし
荒廃であると考 えられています。 山梨県東部を中 心に多くの雨は降り、大原村(現大月市)

では県内最大となる降水量718 ミリが観測されました。

明治40年8月の山梨県内降水量(mm)					山梨県水害史を基に作成			
旧町村名	現市町村名	22日	23日	24日	25日	26日	計	
谷村町	都留市	124.0	188.0	124.0	8.5	25.0	469.3	
韭崎町	韭崎市	23.0	170.7	160.5	46.0	3.8	404.3	
飯野村	南アルプス市	59.3	151.8	195.0	71.3	2.5	479.9	
三富村	山梨市	75.0	123.0	71.0	3.0	—	272.0	
石和村	笛吹市	67.5	4日間の分量				413.2 7480.	
上九一色村	甲府市	15.0	140.0	135.0	×	×	290.0	
	富士河口湖町							
睦合村	南部町	30.6	225.0	192.1	12.8	8.8	469.3	
中野村	山中湖村	2日間の分量		284.7 304.4	43.7	10.2	645.0	
大原村	大月市	54.5	415.3	120.7	84.3	43.2	718.0	

めいじ やまなしけんないこうすいりょうず やまなしけんすいがいいし もと さくせい
明治40 年 8 月の山梨県内降水量図 (山梨県水害史を基に作成)
さんりん こうはい かいこん こうきょう さんりんはかい ねんりょう さんりんばっさい ひ お
山林の荒廃は、開墾やエ 業 による山林破壊や燃 料のための山林伐採によって引き起こさ

れました。また県立森林の 36%以上を占めた御料林の荒廃も深刻で、過度な盗伐などによ

り保水力を失った山林は、脆い地質と相まって豪雨のたびに山崩れを引き起こしました。

この災害の被災者対策の一環として、官営補助による北海道への集 団移住が実施されま

した。明治41 年から 44 年にかけて行われた 3回の移住では、計 488 戸・約 2,000 名が北海

道を目指しました。医師や看護婦の随行、農具の提 供など、官による手厚い支援のもと送

り出されましたが、入植地は極めて険しい山林部でした。開拓の困難さと環 境の悪さから

離農が相次ぎ、この大規模な移住計画は最終的に失敗という結果を辿りました。

参考文献
都留市 1966 『都留市史 通史編』
早川文太郎 1911 『山梨県水害史』
山梨県 2006 『山梨県史』

博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト



「都留で起きた水害の歴史を知らう」

めいじ ねん すいがい がいよう
1. 明治40年の水害の概要

めいじ ねん がつげじゆん やまなしけん だいいさいかい けんぜんたい ししや か おくりゅうしゅつやく
明治40 (1907) 年8月下旬、山梨県を襲った大水害は、県全体で死者232 名、家屋 流 出 約

1 万 2,000 戸という凄惨な被害をもたらしました。盛里村 (現都留市盛里地区) や宝 村 (現

都留市宝地区) でも朝日川や大幡川の氾濫により甚大な被害が発生し、禾生村 (現都留市禾

生地区) では大規模な地滑りが起こりました。交通網の寸断や橋 梁 の流 失、学 校 の崩壊

など村の機能は麻痺状 態に 陥 り、当時の盛里村臨時村会では「本村開闢未曾有の大水害」

と評され、村の存続を揺るがすほどの大規模な災害であったことがうかがえます。

めいじ はっせい すいがい ぼうさい
明治40 年に発生した水害を振り返り、そのリスクと防災について考えていきましょう。



みなみつるぐん ひが い
2. 南都留郡の被害

明治40年の大水害南都留郡被害状況 山梨県水害史を基に作成					
人	死者	31人	道路	流失埋没	51か所 9651間 (約17.5km)
家屋	全壊	40戸		破損	24か所 873間(約1.5km)
	半壊	104戸			
	破損	180戸	橋梁	流失破損	289間(約0.5km)
	流失	316戸	田	埋没流失	176丁 (約1.76km ²)
	浸水	244戸		浸水	94丁2反 (約0.94km ²)
堤防	決壊	58か所 4174間 (約7.5km)	畑	埋没流失	105丁4反 (約1.05km ²)
	破損	69か所 1742間 (約3.1km)		浸水	151丁3反 (約1.51km ²)
			山	山崩	168か所

めいじ ねん だいいがいみなみつるぐん ひが いじょうきょう ず やまなしけんすいがいし もと さくせい
明治40年の大水害南都留郡被害 状 況 図 (山梨県水害史を基に作成)
この水害で、都留では朝日川や大幡川、南都留郡では河口湖などの水があふれ、大きな被害
がでました。山崩れもたびたび起こり、土や石で道路や田んぼ、畑 がうまってしまいまし
た。そのため、人々はそれまでのように生活することがむずかしくなりました。

(ようごせつめい)
【用語説明】

かおくぜんかい たてもの こわ じょうたい
家屋全壊…建物がすべて壊れた状態のこと

かおくはんかい つる しゅう ぶぶん やね はしら す
家屋半壊…建物の主要な部分(屋根や柱)が壊れて住むことができない状態のこと

かおくはんそん こわ じょうたい
家屋破損…建物が壊れている状態のこと

かおくりゅうしつ たてもの こうずい どしゃくず
家屋流失…建物が洪水や土砂崩れによって流されてしまった状態のこと

かおくしんすい なか みず
家屋浸水…建物の中に水が入ってしまった状態のこと

ていぼうけっかい かわ みず
堤防決壊…堤防(川の水があふれないように作るもの)が大規模に崩れた状態のこと

ていぼうはんそん けず ぶぶんてき
堤防破損…堤防が削られて部分的部分的に崩れてしまった状態のこと

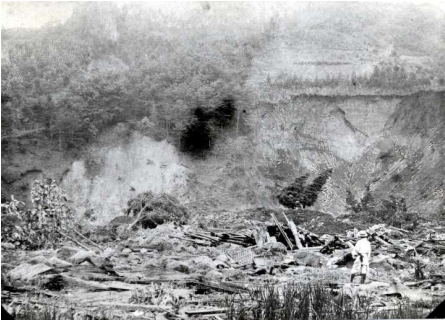
りゅうしつまいぼつ まいぼつりゅうしつ どうろ たはた こうずい どしゃ じょうたい
流失埋没・埋没流失…道路や田畑が洪水によって流され、土砂に埋まった状態のこと

きょうりゅうりゅうしつはんそん はし こうずい
橋 梁 流 失 破 損…橋が洪水で流され、壊れてしまった状態の事

つる し ひが い
3. 都留市の被害



災害後の様子(盛里村)



山崩れの様子(盛里村)

だいいすいがい はっせいちよくご もりさとむら げん つる しもりさとち ぐ りんじそんかい しょうしゅう おら
大水害の発生直後、盛里村(現都留市盛里地区)では臨時村会が招 集 されました。村は

ひが いじょうきょう はあく ふっこう だいいっげ ぎいん ちょうさいん かくく
被害 状 況の把握することが復興の第一歩であると考え、議員による調査員と各区からの

りんじどぼくいん せんしゅつ むら ふっきゅうたいせい こうちく しりゅうしゅつ じんじょう
臨時土木委員を選出して村ぐるみの復旧体制を構築しました。また流 出した營索尋常

しょうがっこう だいよう かくぐらでん かりこうしゃ てんよう きょういくかんきょう い じ じんそく ちゃくしゅ
小学校の代用として神楽殿を仮校舎へ転用するなど、教 育 環 境の維持にも迅速に着手し

ました。

たからむら げん つる したから ち ぐ おおはたがわ はんらん やまくず おら と ち どしゃ
宝 村(現都留市宝 地区)では大幡川の氾濫や山崩れによって村の土地が土砂に埋め尽く

されました。小規模な修繕は村や地域の人たちが決められた仕事をする義務である「義務

人足」によって懸命に支えられましたが、東京ドーム4個分の広さにあたる20町歩(20万

m²)にも及ぶ耕地が長期間手付かずになるなど、生活再建への道は極めて険しいものでした。

さいがいはいっせい すうねん けいか たいしょう ねん こうずい お
災害発生から数年が経過した大正4年になっても、洪水が起きないようにするための

ごがんこうじ ぎけつ じじつ さいがい ふっきゅう ちょうき
護岸工事が議決されている事実は、災害からすぐ立ち直ることができず、復旧が長期にわ

たるものであったことを物語っています。